

4月9日は「子宮の日」です。今回は子宮頸がんの予防を中心に特集します。

子宮頸がんは年間約1万人以上が罹患し、約 2,900 人が死亡しており、患者数・死亡者数とも近年増加傾向にあります。特に、20歳～30歳代の若い世代での罹患の増加が著しいものとなっています。

●性交渉でのウイルス(HPV:ヒトパピローマウイルス)感染が原因で、子宮頸がんは誰でもなる可能性があります。

→自然界にありふれたウイルスですので感染は珍しくなく、男女ともに多くの方が感染していますが、**HPV ワクチンで感染を予防できます。**

ただし、過去に接種していても子宮頸がんを完全に予防することはできませんので、20歳になったら定期的に検診を受けましょう。性感染症の予防も忘れずに！！

●症状は、出血やおりものなどがありますが、**初期には自覚症状がないため、自分では、がんであることに気づきません。**

→早期発見のためには、**子宮頸がん検診を受けることが重要です。**

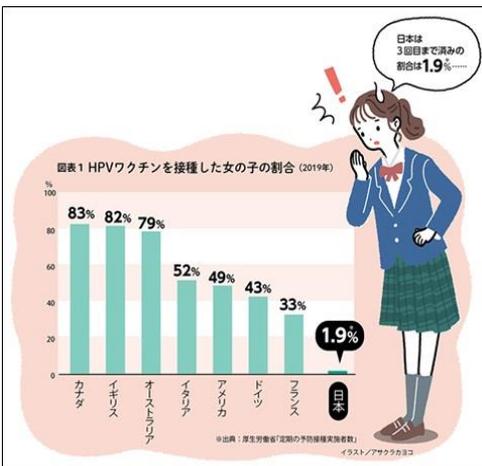
気になる症状があれば、ほかの病気の可能性もあるので、早めに婦人科で診察を受けることも大切です。

子宮頸がんは、予防ワクチンがある唯一のがんです。

HPV ワクチンの定期接種対象は小学校 6 年～高校 1 年相当の女子ですが、副反応の調査のために積極的な勧奨を控えていました。ワクチンの高い予防効果と安全性が確認されたため、2022 年より積極的な勧奨が再開されました。再開までの約 8 年間のうちに、定期接種しなかった人に対しては、改めて公費で接種を提供するキャッチアップ接種を行っています。**対象者は 1997～2005 年度生まれの 9 学年で、接種期間は 2022 年 4 月～2025 年 3 月までとなります。**

子宮頸がんにつながる HPV の感染は、HPV ワクチン接種で防ぐことができ、それにより子宮頸がんの原因の 50～70%を防げます。世界保健機関(WHO)も接種を推奨しており、2020 年 11 月時点で 110 力国で公的な接種が行われ、カナダやイギリス、オーストラリアなどの接種率は約 8 割となっていますが、日本では積極的な勧奨を控えていた影響もあり、3 回目まで接種完了した割合が、1 割に満たない状況です。

HPV ワクチン接種の積極的な勧奨の再開を機に、**ワクチンについて正しく知り、「接種する・しない」を自分自身で考え、選んでほしいです。**



～20歳からはじめよう！2年に1度は子宮頸がん検診へ～

子宮頸がん検診を受けるには？

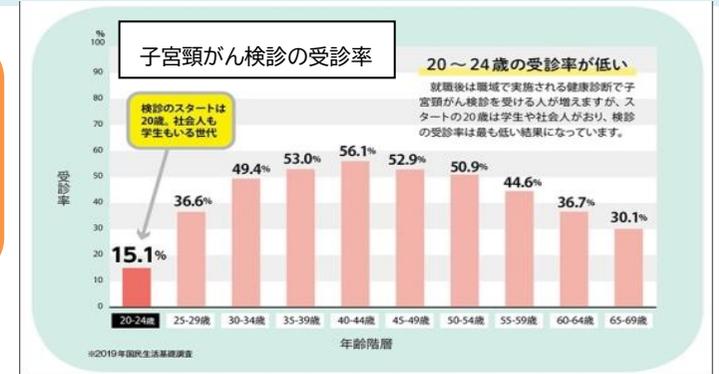
市区町村の検診の場合、費用の補助があります。**住民票がある市区町村での申し込みになります。**集団検診を実施しているところもあります。**詳しくは、各市町村のHP等を確認してください。**

ここでは、北九州市の検診について案内します。(以下、北九州市HPより抜粋)

- ・対象者:20歳以上の女性の北九州市民 ※20歳の方には無料クーポン配布(今後は不明)
- ・検診内容:視診、細胞診、内診
- ・受診回数:1年度に1回(国の指針では2年に1回ですが、北九州市では1年度に1回可。)
- ・受診料:1,000円(市民税非課税世帯・生活保護世帯の方は受診料が免除されます。)

各自で指定の医療機関に検診の予約をします。

指定医療機関については、「(お住まいの)市町村名 子宮頸がん検診」で検索を！



若い世代の子宮頸がんが増えています。早期発見のためには**20歳からの検診**がとて大切です。

子宮頸がん(ヒトパピローマウイルス感染症)ワクチンのキャッチアップ接種について、接種可能な医療機関などの詳細については、住民票がある市町村のHPを参照してください。北九州市在住の方は、こちらのQRコードより確認を→



(参考・引用)

■厚生労働省「HPVワクチンについて知ってください 子宮頸がん予防の最前線」

https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/kouhou/kouhou_shuppan/magazine/202205_00001.html

■国立がんセンターがん情報サービス <https://ganjoho.jp/>

■北九州市HP <http://www.city.kitakyushu.lg.jp/ho-huku/17200120.html?vm=r>